

義務教育費国庫負担制度堅持と負担率2分の1への復元、「少人数学級」の実現などに向けた教育予算の確保・拡充と就学保障の充実を求める意見書

義務教育費国庫負担率が2分の1から3分の1となり、定数内期限付採用や非常勤教職員が増加し、教職員定数未充足などの状況が顕著である。

また、地方交付税措置されている図書費などについて、自治体により格差が生じているなど、教育にかかわる公的支出は不十分であるほか、経済的な理由で進学・就学を断念する実態もあり、「教育の機会均等」の確保が求められている。

よって、政府においては、子どもたちが、住む地域や環境に関係なく平等にきめ細やかな教育を受けられるようにするため、下記の事項を実施するよう求める。

記

- 1 義務教育費国庫負担制度を堅持し、国庫負担金の負担率を2分の1に復元すること。
- 2 「少人数学級」を早期に実現し、小学校第1学年から中学校第3学年の学級編成の標準を順次改定するとともに、地域の特性にあった教育環境の整備や計画的な教職員定数改善を早期に実現するための予算を措置すること。
- 3 教材費などの保護者の負担を軽減させるとともに、図書費など教育にかかわる公的支出について、予算の確保・拡充を図ること。
- 4 就学援助制度・奨学金制度の更なる拡充など、就学保障の充実を図ること。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成30年（2018年）6月4日

札幌市議会

（提出先）内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣

（提出者）全議員